

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100159		
法人名	有限会社スイート		
事業所名	ケアパーク和月グループホーム		
所在地	桑名市太夫123番地2		
自己評価作成日	平成 29年 5月24日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2490100159-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市桜町3690-4
訪問調査日	平成29年 6月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桑名市の中心部に近い閑静な住宅地に位置し、南側には桑名市指定天然記念物である大楠があり、北側には国の無形文化財である伊勢太神楽で有名な増田神社がある。四季折々の自然豊かな環境に恵まれており、毎日の散歩には絶好な場所である。同敷地内には、小規模多機能ホーム・デイサービスが隣接しており、ご利用者の状態に合わせ段階的に、複合的な支援を行なっています。また、地域の方向けに、認知症カフェや健康ケア教室の開催をしています。事業所の方針は、認知症であってもその人らしく普通の生活を送ることができるよう、入居者自身が参加、活動する自立支援サービスを基本としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業者は同一敷地内に小規模多機能、認知症カフェ、福祉ケア教室など、認知症高齢者を地域で支える活動拠点を併設している。グループホームは2ユニットあるが、ユニット間で差は無く、1ユニット同等の運営がされており、同一敷地内併設施設と併せて、重症度に合わせたケアが色々な側面から適切に行なわれる体制により認知症対応型共同生活介護サービスが実施されている。
施設内の状況や職員は利用者の家に訪問してきているという雰囲気に対応されており、利用者の今までの家庭での生活の延長としての生活状況を重視した介護の実践がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、運営方針は各ユニット・事業所内に掲示し、職員は業務の中で理念を意識しながらサービスの提供が出来るように努めている。	毎月実施の職員会議で日常のケアの状況を確認して、理念の原点に戻り全員で共有化する事で日頃のケアの実践にフィードバックされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、町内の溝清掃等や、秋の落葉清掃に職員が参加し、地域交流を図りながら馴染みある隣組のような関係を築いています。	オレンジカフェや健康教室を開催し、地域に貢献し、また秋祭りや回覧板回しにも利用者が参加したり、散歩時には積極的に挨拶をすることで、利用者が地域に溶け込み易い工夫が為され、地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を開催して、地域の方の意見を聞いて理解して頂けるように努めています。また、事業所内スタジオで地域高齢者に向けて毎木曜日「健康教室」を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設から現状や日々の活動の報告をし、行政から意見や情報提供を頂き、サービス向上に活かしています。	利用者家族の参加が片寄らないよう、順番に参加を依頼している。出席者からの相談にアドバイスをしたり、事業報告に対する行政や家族の意見を介護サービスの向上に適切に活用するなど本会議を生かした取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議にも毎回参加して頂き、日頃から相談など適切なアドバイスを頂いています。	市の担当者とは、運営推進会議時や、議事録や報告書の提出時、また市に和月の「健康教室」のパンフを持参した時以外でも、日頃から相談に乗ってもらいアドバイスを貰う等、密にコミュニケーションをとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間時を除いて、玄関の施錠は行っていない。勉強会を通して職員に「身体拘束に該当する具体的な行為」を学び、ケアに取り組んでいます。玄関の施錠はせず、チャイムなどに置き換えて安全確保に努めています。	事業所内及び新人研修での勉強会を通して「身体拘束に該当する具体的な行為」を学び、全員で「しないケア」に取り組んでいる。玄関は、出入りしやすい軽い引き戸で、程よいチャイムの音色の人のセンサーにより、安全確保が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修を行い、カンファレンスや勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護実践者研修に参加した職員は研修で学び、参加していない職員にはレポートや会議で伝達し、全員が学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者及び家族に対し、十分に説明を行っています。また、疑問点などがあれば、その都度説明し、理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見は、面会時や運営推進会議時に職員や管理者に話して頂いています。外部者へも苦情を伝えることができる機会を設けています。	運営推進会議や面会時に家族の思いを引き出し理解する体制を整えている。また、職員が直接家族から聞いた時は、必ず管理者に伝える体制となっている。毎月の「ホーム便り」では、担当職員の手書きのコメント入りで利用者の状況を報告し、家族からの思いを集める工夫がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で職員が発言できる機会を設けています。また、アンケート調査も行い、意見を反映させるようにしています。	定期的な職員との面談や全体会議の他にも日常的に話しやすい雰囲気の中で職員と話せる機会を設けている。また全職員がどれかに属する各種委員会を設置し、それらの中で出された意見が施設運営に反映される仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員と面談を行い、職場環境の整備に反映させています。また、勉強会や行事を主催してもらうなど、モチベーション、向上心が持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修の参加や勉強会、法人内の勉強会など職員のスキルアップの機会の確保に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「ゆめはまちゃん医療・介護ネットワーク」に参加しています。保健・医療・介護・福祉の関係者と連携を図り、一体的なサービスで情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の状態、意向等を伺い、信頼関係を築いていきます。本人の様子を見ながら、入居後、安心して暮らせるように一緒に関わられる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、要望等を伺い、信頼関係づくりをしています。入居後もコミュニケーションを多くとり、本人が安心して暮らせるように一緒に関わられる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ゆっくりお話を伺いながら、その時必要としている支援は何かを考え、他のサービスに繋がられることもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑づくり、料理の下ごしらえ、花壇の手入れ、裁縫など得意な分野において手順や方法を教えて頂くこともあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族との繋がりを大切に思っているように、家族と連携を取りながら一緒に本人を支えていける関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人などにも自由に面会に来て頂き交流して頂いています。入居前からのかかりつけ医に継続して通っています。行きつけの美容院に行っている利用者もいます。	在宅時の近所の友人にも自由に面会に来てもらったり、馴染みの美容院、行きつけの床屋に職員(家族に依頼できる場合は家族)が送迎している。また、家族との墓参、法要にも参加してもらえるよう手配している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者間で会話が弾むような話題を提供したり、レクリエーションや行事を通して利用者同士が良好な関係を保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に訪ねて頂けるように、相談を受けるなどの体制づくりに努めています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、本人にお伺いし、希望、意向の把握に努めています。また、ケアカンファレンスを行い、職員間で利用者本位のサービスが提供できているかなど検討しています。	毎月1回「ケアカンファレンス」を全職員で行い、利用者の思いや希望の把握から「ケアプラン」を作成している。日々の利用者に関する新たな気づき(思いや意向)は「申し送りノート」に記録し、情報共有がされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者から情報提供を頂き、生活の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から本人の出来る事、出来ない事等を見極め、役割を持って頂くように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに、定期的にケアカンファレンスを行い、現状のニーズに見合った介護計画を作成しています。	介護計画は、日々の気づきや意見を毎月の全員参加でのケアカンファレンスで検討し、作成して、3か月ごとに総合評価している。変化があった時は、家族と話し合い、見直しをしている。	介護計画作成以前の段階(ケアカンファレンスや日常での意見交換など)から、利用者、家族とのコミュニケーションの場の設定による積極的な意見収集の更なる取り組みが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や気づき等は申し送りノートを活用し、ケアの統一を図ると共に、介護計画にも反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居申し込みの段階でサービスに困っている家族がいたら、居宅や他のサービスの紹介をするなどの相談に乗り、介護疲れを軽減できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方が声を掛けてくださったり、お友達や家族の面会などから充実した暮らしが継続できるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医を継続しています。受診時は情報提供をし、必要時には職員も同席し医師に状況を説明し、適切な医療を受けるようにしています。	希望者には、家族に必要な情報を提供し家族の協力を得て、入居前のかかりつけ医の受診が継続されており、必要に応じて職員も同行支援している。家族の希望により在宅医の往診を支援したこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護連絡ノートを活用し、連携を密にしています。また、急変時は24時間体制で相談でき、適切なアドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時情報提供を行い、医療機関と情報を共有しています。入院中は職員、管理者、看護師が訪問し、退院を含め今後の方向性について話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には看取りの説明を行い、体調を見極め終末期をどこで迎えるかを確認している。ホームでの看取りを希望された時は本人、家族、主治医、看護と連携を図り、納得のいく終末期を過ごせるよう最大限に出る事を支援しています。	「看取りに関する指針」があり、入居時に説明を行い意向を聞き、確認を取っている。体調の変化によりその都度、本人、家族の希望を第一に考え、主治医、看護との連携、方針の統一を図り、最後の時を家族と一緒にすごせるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	玄関にAEDを設置しており、AEDや吸引器の使用研修も実施し、職員が適切な初期対応ができるように努めています。24時間オンコールで対応できる体制になっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、消火器、消火栓、通報装置の使い方の訓練を行っています。	日中想定訓練は、地域住民に参加を依頼し実施している。夜間想定は、マニュアルを策定し模擬訓練を実施している。高台である事から、水害の危険はないので、地域住民の緊急避難先として地域貢献もしている。	災害時地域の避難所となっているが、その時の対応方法・内容につき、地域との協業での準備が必要となり、有時の収容人数を想定した緊急物資のリスト化とチェックも望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し、入居者を尊重した声掛けや対応をするように心がけ、また定期的に勉強会も開催しています。	利用者一人ひとりの生活歴や性格を把握し、職員全員が日々の接遇の中での気づきを連絡ノートで共有して、利用者を尊重したさりげない声掛けや言葉かけに努めている。個人の記録類は定められた施設領域に保管され、プライバシー侵害発生を予防している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で本人の意思を確認しています。また、本人が自分の思いを言いやすい雰囲気づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先することなく、本人のペースを大切にしながら生活を送って頂いています。また、要望があればできる限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせ、本人の好きな服などを一緒に選んだりしています。また、馴染みの美容院や訪問カットで好みの髪型にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや器に工夫し一人ひとりの適切な状態に合わせて配膳しています。利用者も盛り付けや食器洗い、食器拭きなど一緒にを行っています。	昼食作りは利用者主体で、利用者は、ホワイトボードに書きこまれた「今日の食材」から、職員と一緒にメニューや調理法等を考え、調理し、後片付けも一緒に行っている。利用者と職員は食事中、感想を言い合ったりと、会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェックし、本人の意向を伺ったうえで食事形態や水分の種類などを変え、出来る限り摂って頂くよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は出来る限り口腔ケアを行っています。夕食後は義歯を外し洗浄剤で洗浄消毒をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しているので、尿意、便意のあいまいな方でも、定期的にはトイレへの誘導、声掛けを行っています。	一人ひとりの排泄パターンが把握できているので、個別にさりげなく声掛けをしている。日中はハビリパンツ着用で、様子観察を細かく行いトイレでの排泄を支援し、自尊心を気づけられない対応が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配り、食物繊維を多くとって頂くなど心掛けています。また、ヨーグルトや適度な運動等で便秘予防に気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね時間は決まっているが、本人の体調や希望により、変更したり、入浴拒否の場合は無理強いせず、時間をずらして声掛けを行っています。	入浴は概ね夕方に設定し、希望を聞きながら、個別に支援をしている。同性介助や、時間をずらしてのさりげない声掛け等で入浴拒否が無くなった。重度の利用者には、併設事業所の機械浴で支援し心身の負担を軽減している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を踏まえ、安心して気持ち良く眠れるような居室のづくりや、温かい飲み物を提供したり、お話を聞くなどの対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用、使用している薬については、全職員が周知できるよう見やすい場所に置いたり、情報共有を図っています。変化があればすぐに医師や看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや調理、盛り付け、配膳などの出来る事を活かし、多くの役割をもって頂くように心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等によっては散歩、ドライブ、買い物へ出かけています。また、家族との買い物や外出などを楽しまれる方もいます。	天気の良い日は、職員と共に散歩や買い物を楽しんでいる。利用者の希望を聞き、数人のグループに分けて、花見などのドライブや、家族に協力を依頼し、家族との買い物や墓参など、個別支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設にて小口現金を預かり、そこから支出しています。家族との外出時にはお財布を渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から届く手紙などを楽しみにされている方もいます。本人が希望される時は、電話にて話をして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の外回りには花や野菜を植え、フロアは季節のものを利用者と一緒に作り飾っています。また、温度や光などは職員が管理をし、随時対応しています。また、懐かしい音楽をかけたりもします。	空調、採光など体調や認知症特有症状への適切な対応が為されている。南に面した食堂兼居間は広々とし、居室と直結しており出入りし良い工夫が為されている。利用者は、フロアのソファでテレビを見たり、静かに流れる懐メロのBGMにロズさんだりと自宅同様にくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの一角にソファを置き、自然と仲間が集まり会話を楽しまれています。その他居室でそれぞれが過ごせる空間づくりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族との写真を飾ったり、使い慣れた家具など自宅と変わらない環境づくりによって混乱しなく、落ち着いて過ごされるような工夫をしています。	使い慣れたなじみ深い家具やテレビ等を持参してもらい、入所前の自宅と変わらない雰囲気・環境作りをしている。極力混乱なく過ごせるよう配置も工夫している。壁には家族やペットの写真等が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など名前や文字を貼り、スムーズに生活が送れる工夫をしています。		